

第七十三回
帝國議會
貴族院

商法中改正法律案特別委員會議事速記録第一號

付託議案

商法中改正法律案

商法中改正法律施行法案

有限會社法案

委員氏名

委員長

侯爵大隈 信常君

副委員長

山岡萬之助君

公爵島津 忠承君

伯爵黒木 三次君

伯爵八條 隆正君

子爵舟橋 清賢君

中川 健藏君

仁井田益太郎君

松本 丞治君

男爵松岡 均平君

男爵伊藤 文吉君

男爵奥田 剛郎君

森 平兵衛君

磯村豊太郎君

山隈 康君

岩田 宙造君

山上 岩二君

大西虎之介君

昭和十三年二月一日(火曜日)午前十時十分開會

○委員長(侯爵大隈信常君) ソレヂヤ是ヨリ商法中改正法律案外二件ノ特別委員會ヲ開キマス、先ツ大臣ヨリ此ノ三法案ニ付テ

ノ御説明ヲ拜聴致シマス
○國務大臣(鹽野季彦君) 先ツ商法中改正法律案及商法中改正法律施行法案ニ付テ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、本案制定ノ趣旨竝ニ經過ニ付キマシテハ、本會議ノ際ニ其ノ概要ヲ申述ベタノデゴザイマスルガ

現行商法ハ明治三十二年ノ制定ニ係リ、其ノ施行後既ニ約四十年ヲ經過シテ居リマス、其ノ間ニ明治四十四年ニ一部分ノ改正ガ行ハレマシタガ、是ハ最小限度ノ補修ヲ加ヘタ程度ノモノデアリマシテ、要スルニ

現行規定ハ全般ヲ通ジマシテ、現在ノ社會事情、殊ニ商事生活ノ實際ニ照シマシテ、不備ノ廉ガ少クナイノデアリマス、殊ニ會社ニ關スル規定ニ至リマシテハ、特ニ缺點ガ多イノデアリマス、就中會社組織ニ依ル

企業ガ日ニ月ニ盛トナリマシタニ拘ラズ、之ニ關スル法規ガ周到デナイ爲ニ、發起人取締役等ノ責任、其ノ他重要ナル法律關係

ガ兎角明確ヲ缺キマシテ、多數ノ人々ノ權益ニ不安ヲ與ヘマシタコト、殊ニ會社ノ事業ガ蹉跎致シマシタヤウナ場合ニ、諸方面ニ廣ク測ラザル損害ヲ及シマシタコトハ誠ニ遺憾ニ堪ヘナカッタノデアリマス、仍テ政府ハ昭和四年内閣ニ法制審議會ヲ設置シ

テ、朝野ノ權威者三十餘名ヲ其ノ委員ニ任命致シマシタ、其ノ第一ノ事業トシテ商法全般ニ互ル改正要綱ヲ同審議會ニ諮問致シマシタル處、同審議會ハ實業界、法曹界、學會等、各方面ノ意見ヲ徵シマシテ、慎重ニ審議致シマシタル結果、昭和六年七月ニ

先ツ商法中急速ニ改正ヲ要シマスル第一編總則及第二編會社ノ二編ニ付テ二百六項目ニ互ル周到ナル改正要綱ヲ決定シテ、政府ニ對シ答申セラレタノデアリマス、政府ハ右改正要綱ヲ世間ニ公ニスルト共ニ、昭和七年十月司法省內ニ商法總則及會社編改正調査委員會ヲ設ケ、改正法律案ノ立案ノ任ニ當ラシメマシタル處、同委員會ハ右改正要綱ヲ基礎ト致シマシテ鋭意審議立案致シマシタ結果、昭和十年十二月改正法律案ノ立案ヲ完了致シマシタ、而シテ政府ハ取敢ズ右法律案ヲ世間ニ廣ク公表シテ、之ニ對

スル意見ヲ徵シ、其ノ後右法律案ニ若干ノ修正ヲ加ヘマシタルモノヲ去ル第七十回帝國議會ニ提案致シマシタル處、御承知ノ如ク、本院ニ於テ一ノ御修正ガアツテ可決セラレタノデアリマスガ、衆議院解散ノ爲遂ニ成立ヲ見ルニ至ラナカッタ次第デアリマス、仍テ曩ニ提案致シマシタ法律案ニ本院ニ於ケル修正其ノ他二ノ修正ヲ加ヘマシタルモノヲ本案ト致シマシテ、今回茲ニ提案スルニ至ツタ次第デアリマス、前回提案ノモノト本案トノ異ナル點ハ、前回ノ本院ノ修正ニ御贊同申上ゲマシタ以外ニ、唯文字上及ビ他トノ權衡上改メマシタ一二ノ點ガアルダケデアリマス、本案ハ商法第一編及第二編、即チ商法中一部ノ改正ヲ目的トスルモノデアリマス、第四編ノ手形編ニ對シマシテハ既ニ議會ノ協賛ヲ經マシテ、手形法及小切手法ノ制定ヲ見テ居リマス、又第三編商行為及第五編海商ノ二編ニ對シマシテハ、昭和十一年ノ末法制審議會ニ於キマシテ改正要綱ガ決定セラレ、目下政府ニ於テ改正法律案ノ作製ニ付調査研究ヲ進メテ居ル次第デアリマス、右ノ如ク本案ハ商法中一部ノ改正ヲ目的トスルモノデア

スル意見ヲ徵シ、其ノ後右法律案ニ若干ノ修正ヲ加ヘマシタルモノヲ去ル第七十回帝國議會ニ提案致シマシタル處、御承知ノ如ク、本院ニ於テ一ノ御修正ガアツテ可決セラレタノデアリマスガ、衆議院解散ノ爲遂ニ成立ヲ見ルニ至ラナカッタ次第デアリマス、仍テ曩ニ提案致シマシタ法律案ニ本院ニ於ケル修正其ノ他二ノ修正ヲ加ヘマシタルモノヲ本案ト致シマシテ、今回茲ニ提案スルニ至ツタ次第デアリマス、前回提案ノモノト本案トノ異ナル點ハ、前回ノ本院ノ修正ニ御贊同申上ゲマシタ以外ニ、唯文字上及ビ他トノ權衡上改メマシタ一二ノ點ガアルダケデアリマス、本案ハ商法第一編及第二編、即チ商法中一部ノ改正ヲ目的トスルモノデアリマス、第四編ノ手形編ニ對シマシテハ既ニ議會ノ協賛ヲ經マシテ、手形法及小切手法ノ制定ヲ見テ居リマス、又第三編商行為及第五編海商ノ二編ニ對シマシテハ、昭和十一年ノ末法制審議會ニ於キマシテ改正要綱ガ決定セラレ、目下政府ニ於テ改正法律案ノ作製ニ付調査研究ヲ進メテ居ル次第デアリマス、右ノ如ク本案ハ商法中一部ノ改正ヲ目的トスルモノデア

リマスルガ、其ノ内容ハ商法第一編及第二編ニ對シ殆ド全般的ノ改正ヲ企テタモノデアリマシテ、改正ヲ加ヘマシタ點ハ相當多數ニ上ツテ居リマス、今比較的重要ト認メラレマスルモノヲ列擧致シテ見マスルト、第一編總則編ニ於キマシテハ、商號ニ關スル規定ヲ補充シマシタ點、營業讓渡ノ場合ノ權利關係、殊ニ營業讓受人ノ責任ニ付新クナ規定ヲ設ケマシタ點デアリマス、デ、第二編會社編ニ付キマシテハ、會社全般ニ關シテ、會社ハ本店所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ依リ成立スルモノトシマシタ點、會社ノ繼續ヲ廣ク認メマシタ點、會社ノ合併、無効ノ訴ノ制度ヲ創設致シマシタ點、會社ノ設立無効ノ訴ニ關スル規定ヲ改正シマシタ點、罰則ニ付全般的改正ヲ加ヘマシタ點、合名會社及合資會社ニ關シマシテハ、社員ノ責任ヲ明確ニシマシタ點、株式會社ニ關シマシテハ、定款ハ公證人ノ認證ヲ受クベキモノトシマシタ點、現物出資ト同視スベキ所謂財産引受及事後設立ニ付規定ヲ新クニ設ケマシタ點、募集設立ノ場合ニ於テモ、一定ノ事項ニ付裁判所ノ選任シタル検査役ノ検査ヲ受クベキモノトシマシタ點、所謂預合ニ關シ適當ナル禁止規定ヲ設ケマシタ點、記名株式ニ付裏書讓渡ノ制度

ヲ設ケマシタ點、優先株、後配株等種類ヲ異ニスル株式ノ發行ヲ認メ、且會社設立ノ場合ニ於テモ之ヲ發行シ得ルモノトシマシタ點、株主總會ノ決議取消ノ訴ニ關スル規定ヲ改メ、且決議無効ノ確認ノ訴ニ關シ規定ヲ新クニ設ケマシタ點、株主總會ノ特別決議ヲ必要トスル事項ヲ明確ニシマシタ點、取締役又ハ監査役ハ、定款ニ別段ノ規定ナキ限り、株主中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要シナイモノトシマシタ點、少數株主權ノ行使ニ付若干ノ制限ヲ如ヘマシタ點、社債ニ關スル規定ニ主要ナ補修ヲ加ヘ、且社債權者集會ノ制度ヲ新設シマシタ點、資本増加ニ關スル規定ニ重要ナル改正ヲ加ヘマシタ點、各種株式ノ相互ノ轉換ヲ認ムルト共ニ、株式ニ轉換シ得ル社債ノ發行ヲモ認メマシタ點、資本ノ増加又ハ減少ノ無効ノ訴ニ關シ規定ヲ新クニ設ケマシタ點、會社ノ整理ノ制度ヲ新クニ設ケマシタ點、合併ニ關スル規定ニ必要ナ補修ヲ加ヘマシタ點、特別清算ノ制度ヲ新クニ設ケマシタ點等デアリマス、尙商法中改正法律施行法案ハ、商法ノ改正ニ伴ヒ、新舊法ノ調和ヲ圖ル爲、其ノ他施行上必要ナル事項ヲ規定致シタモノデアリマス、以上ノ外詳細ノ點ニ付キマシテハ、必要ニ應ジマシテ、政府委員

カラ十分ニ御説明ヲ致サセルコトニ致シマス、尙本法改正案ハ現行法ニ對シ相當重要ナ改正ヲ加フルモノデアリマスノデ、幸ニ御協賛ヲ得テ公布セラレマシタ場合ニ於キマシテハ、公布後或期間其ノ施行準備ニ充テ、ソレカラ實施致シタイト考ヘテ居リマス、本會議ノ際ニモ申上ゲタ所デゴザイマスガ、今回ノ事變ニ關聯シ、國民經濟ノ運行ヲ確保スルノ必要ガ日ニ日ニ其ノ度ヲ加ヘツ、アルコトハ申ス迄モナイ所デアリマス、從テ本案ニ於ケルガ如キ會社制度ノ堅實ヲ圖ル爲ノ新方策ヲ立テマスルコトハ、今日ニ於テ彌、急務トナツテ參ツタノデアリマス、何卒十分御審査ノ上、此ノ法案ノ通過ニ御盡力アラムコトヲ切望致ス次第デアリマス、次ニ有限會社法案ノ提案理由ヲ申上ゲタイト存ジマス、本案制定ノ趣旨ニ付キマシテハ、本會議ノ際ニ極メテ簡單ニ其ノ概要ヲ申述べタノデゴザイマスガ、我が商法ニ於キマシテハ、御承知ノ通り、合名會社、合資會社、株式會社及株式合資會社ノ四種類ノ會社ヲ認メテ居リマシテ、各會社共ソレ々其ノ特色ヲ有シテ居ルノデアリマスルガ、就中最モ重要ナ活動ヲ致シテ居リマスノハ株式會社デアリマシテ、當委員會ニ於テ御審議ヲ願ツテ居リ

マスル商法中改正法律案ニ於テモ努力ヲ株式會社ノ法規ニ集注シテ居ル次第デアリマス、御承知ノ如ク、株式會社ヲ組織シマスル社員即チ株主ノ責任ガ有限ニテ居リマスコトガ企業組織トシテ歡迎セラレルノデアリマスガ、通例株式會社ノ株主ノ數ハ甚ダ多イノデアリマシテ、或株主ト他ノ株主トノ間ニ聯絡ノナイノガ普通デアリマスルシ、又廣ク株式ノ賣買ガ行ハレマシテ、株主ノ移動ハ常ニ生ジテ居ルノデアリマス然ルニ株式會社ノ株主ト同ジク有限責任デハアリマスケレドモ、相互ニ信賴關係ノ篤イ少數者ニ依ツテノミ組織スル特殊ノ法人モ亦營業ニ甚ダ適當ナ形態デゴザイマシテ、御承知ノヤウニ英國ニ於テ先ヅ發達致シマシテ、獨佛等ノ諸國モ既ニ之ヲ是認シテ居ルノデアリマス、我が國ニ於キマシテモ實業界ニ於テ大分以前カラ其ノ要望ガ強クナツテ居タノデアリマシテ、昭和六年七月法制審議會ハ商法改正要綱ノ諮問ニ對スル答申ノ一項目トシテ、「外國法上ノ有限責任會社又ハ英國法上ノ私會社ニ該當スル特別ノ會社ヲ認メ之ニ付キ特別法ヲ以テ規定ヲ設クルコト」ヲ明カニセラレタノデアリマス、之ニ基キマシテ、司法省内ノ商法總則及會社編改正調査委員會ニ於キマシテ商法中改正

法律案ニ引續キ有限會社法案ノ立案審議ヲ進メ、今回茲ニ同法案ヲ提出スルノ運びニ至リテ、第二章設立、第三章社員ノ權利義務、第四章會社ノ管理、第五章定款ノ變更、第六章合併及組織變更、第七章解散、第八章外國會社、第九章罰則、第十章雜則ニ分レ、八十九箇條ヨリ成ッテ居リマス、今本案ノ骨子トモ申スベキ要點ヲ列舉致シテ見マスルト、一、有限會社ハ其ノ目的ヲ商法上ノ會社ト全ク同一ト致シマシタコト、二、社員ノ責任ハ其ノ出資ノ金額ヲ限度ト致シマシタコト、三、社員ノ數ノ最大限度ヲ原則トシテ五十人ト致シマシタコト、四、資本ノ總額ノ最大限度ハ別ニ制限致シマセヌガ、其ノ最大限度ヲ一萬圓ト致シマシタコト、五、社員ノ持分ハ出資口數ニ分割スルモノトシ、出資一口ノ金額ヲ百圓以上ト致シマシタコト、六、持分ノ讓渡ニハ社員總會ノ特別決議ヲ要スルモノトシ、社員相互間ノ讓渡ニ付テハ定款ヲ以テ其ノ制限ヲ緩和スルコトヲ得ルモノト致シマシタコト、七、設立ノ際ニ必ズ出資金額ノ拂込ヲ爲スモノトシ、拂込未済ノ分ニ付テハ、會社設立當時ノ取締役、監査役及社員ガ連帶シテ拂込ノ責ニ任ズルモノト致シマシタコト、八、現

物出資又ハ財産引受ニ付其ノ財産ノ評價ガ不當ナル場合ニハ、會社成立當時ノ社員ガ連帶シテ責任ヲ負フモノト致シマシタコト、九、資本増加ノ場合ニモ、右八及ビ九ト同趣旨ノ規定ヲ設ケマシタコト、十、業務ノ執行ハ取締役ヲシテ之ニ當ラシムルコトト致シマシタガ、監査役ヲ置クト否トハ任意トシ、定款ノ定ムル所ニ依ルモノト致シマシタコト、十一、社員總會ニ付書面ニ依ル決議ヲ認メ、其ノ他多クノ事項ヲ會社ノ自治ニ委セマシタコト、十二、少數社員ノ權利ヲ認メマシタコト、十三、有限會社ト他ノ有限會社又ハ株式會社トノ合併ヲ認メマシタコト、十四、株式會社ハ其ノ組織ヲ變更シテ、有限會社ト爲スコトヲ得ルモノトシ、有限會社ハ其ノ組織ヲ變更シテ、株式會社ト爲スコトヲ得ルモノトシ、シマシタコト、十五、貸借對照表ノ公告ハ之ヲ強制セザルモノト致シマシタコト、十六、社債ノ募集ハ之ヲ認メザルモノト致シマシタコト等デアリマス、其ノ他詳細ノ點ニ付キマシテハ、必要ニ應ジマシテ、政府委員ヨリ十分ニ説明ヲ致サセル積リデアリマスガ、要スルニ、先程申述ベマシタ特種ノ營業組織ヲ是認シテ、之ニ適應スル法規ヲ網羅シタモノデアリマシテ、國

民經濟ノ發達ノ爲ニ大ニ裨益スルコトガ出來ヨウト存ズル次第デアリマス、今回ノ事變ニ關聯シ、國民經濟ノ健全ナル運行ヲ確保スル必要ガ日ニ日ニ其ノ度ヲ加ヘツ、アルコトハ申ス迄モナイ所デアリマスルシ、事變後ノ事態ニ備ヘマスル爲ニ、商法中改正法律案ト相俟ッテ、會社關係法規ノ完備ヲ期スルコトハ、今日ニ於テ全ク焦眉ノ急務トナッテ參ッタノデアリマス、何卒十分ニ御審査下サレ、此ノ法案ノ通過ニ御盡力アラムコトヲ切望致ス次第デアリマス

第五種ノ會社ト致シマシテ規定ヲ致シマス、規定ガ甚ダ錯雜ニナルノデアリマス、ソレカラ申上ゲル迄モナク新種類ノモノデアリマスルカラ、之ヲ在來ノ商法ノ會社編ノ中ニ插入シナイデ、別個ノ法案ト致シマシタ方ガ運用ニモ都合ガ宜イト存ジタノデアリマス、全ク便宜ノ問題デアリマシテ、立案ノ點カラ考ヘマシテモ、亦運用ノ點カラ考ヘマシテモ、其ノ方ガ至當デヤナイカト存ジタヤウナ次第デアリマス

○委員長(侯爵大隈信常君) ソレデヤ此ノ場合、此ノ三法案ニ對シマシテ全般的ノ御質問ガアリマシタラ、ドウゾ願ヒタイト思ヒマス、尙細カイコトニ付キトシテハ其ノ法案毎ニ願フコトニ致シタイト思ヒマス、大體ノコトヲ一ツ……

○森平兵衛君 參考書類ノミデ見マス、株式合資會社ト云フモノハ頗ル會社ノ數ガ少イノデアリマス、今回ノ此ノ有限會社ト云フモノハ、チヨット見ルト、株式合資會社ニ能ク似テ居ッテ、ソレデマア株式ノ方デアレバ、讓渡ガ便利デアル、有限會社デアレバ、一々社員ノ口數ガ讓渡スル度毎ニ登記ヲセンナラヌト云フヤウナ、非常ナ不便ガアルノデアリマスルガ、株式合資會社ガ、

殆ど有限会社ノ此ノ法案ガ通レバ、不要ノヤウナ感ガスルノデアリマスガ、將來ハ此ノ株式合資會社ト云フモノハ永久ニ存續セラレルト云フヤウナ政府ノ御考デアリマスカ、御考ヲ承ッテ置キタイト思ヒマス

○政府委員(大森洪太君) 株式合資會社ハ

其ノ現狀ニ於キマシテ、御説ノ通りニ、甚ダ其ノ數ハ少イノデアリマス、實ハ商法中改正法律案ノ立案ノ際ニモ、斯様ニ數ガ少イノデアリマスカラ、寧ロ法典ノ上カラ削除シタ方ガ宜イデハナイカト云フヤウナ議論モアツタ位デアリマス、併シナガラ假令少數デアリマシテモ、現在株式合資會社ト云フモノガ存在シテ居ルノデアリマスシ、將來是ガ絶無ニ歸スルトモ考ヘラレナイノデアリマシテ、ソレデ此ノ儘存置シタ方ガ宜カラウト存ジタ次第デアリマス、ケレドモ、私共モ將來株式合資會社ノ甚ダシク殖エルト云フ考ハ、毛頭有ッテ居ラナイノデアリマス、唯現在アリマスシ、且將來絶無ニナルト云フコトモ考ヘラレマセズデシタカラ、之ヲ其ノ儘存置シタヤウナ次第デアリマス、尙株式合資會社ハ、御承知ノ通りニ、合名會社ト株式會社トノ兩方ノ特長ヲ兼ネ併セ

ルモノトシテ考ヘラレタモノデアリマセウケレドモ、ソレハ最初株式合資會社ナルモノノ發案セラレタ當時ノ考デアリマシテ、其ノ後ノ實情ヲ見マスルト、無限責任社員ハ株主ト大變性質ノ違ッタモノガ二ツ揃ッテ居ルモノデアリマスカラ、木ニ竹ヲ接イダヤウナコトニナリマシテ、其ノ實際ノ運用ハ必ズシモ圓滑デナイノデアリマス、之ニ反シマシテ、有限會社ハ悉ク社員ガ有限責任デアリマシテ、唯其ノ社員間相互ノ信賴ノ厚イ者ダケ、斯ウ云フノデアリマスカラ、相互ノ信賴ノ厚イ者ダケト云フ點カラ見マスト、合名會社ニ似テ居リマスシ、又悉ク有限責任デアルト云フ點カラ言ヘバ、株式會社ニ類似シテ居ルノデアリマス、即チ此ノ意味ニ於キマシテ有限會社ハ合名會社ト株式會社トノ兩方ノ特長ヲ發揮スル性質ノモノデアルト云フコトガ言ヘルカト思フノデアリマス、從ッテ有限會社ガ益、今後殖エテ參リマス、ソレニ伴ヒマシテ株式合資會社ガ段々減ッテ來ルト云フコトモ想像ハ出來マスケレドモ、先程申上ガマシタ通り、株式合資會社其ノモノガ全く無クナルト云フコトハ今日想像ガ出來ナイモノデアリマスカラ、存置ダケハ致シテ置ク、斯ウ云フ工合デアリマス、左様御諒承ヲ願ヒマス

○森平兵衛君 今回ノ有限會社ガ丁度合資會社カ合名會社デアッテ、ソレデ有限デアル、合資會社ノ方デハ他ノ社員ハ有限デアリマスカ、御承知ノ通り、代表社員トカ業務執行社員ダケガ無限デアル、其ノ無限ダケヲ取ツタモノデ、全部有限ニナルト云フダケノ特長デアッテ、出資ノ口數ノ移轉ノ度毎ニ登記ヲセンナラヌト云フコトガ、大變手數ヲ要スルノデアリマス、實際上トシマシテハ、同族會社ニシテモ何ニシテモ、株券ノ口一ロヲ甲カラ乙ニ讓ッたら、直グ登記ヲセンナラヌト云フコトガナカノ煩雜ノ手數ヲ要スルノデアリマスカ、斯ウ云フコトニ付キマシテハ法制審議會ニ於テ何等カ御考ガナカッタノデアリマスカ

○政府委員(大森洪太君) 御説ノ點ハ固ヨリ考慮致シタノデアリマス、唯有限會社ニ於キマシテハ、原則トシテ出資口數ノ持分ト申シマスル此ノ讓渡ト云フコトニ付テハ、非常ナ制限ガアルノデアリマシテ、只今大臣ヨリ申述べマシタ通りニ、在來ノ社員相互間ノ讓渡ニ付キマシテハ、餘リヤカマシクシナイデモ宜イト云フ緩和ノ方法ハ認メマシタケレドモ、サモナイ時分ニハ、此ノ持分ノ讓渡ト云フコトニ付テハ相當嚴重ナ制限ガアルノデアリマス、デアリマスカラ、出資ノ讓渡ト云フコトハ左様ニ頻繁ニハアリ得ナイト存ジテ居ルノデアリマシテ、登

記ヲ以テ之ニ臨ミマシテモ、左程ノ不便ガナイト云フコトニ考ヘタヤウナ次第デアリマス……甚ダ恐縮デアリマスルガ、私ガ思ヒ違ヒラ致シテ居リマシタ、出資口數ノ移轉ニ付テハ登記ノ必要ガナイノデアリマス、左様訂正ヲ御許シ願ヒマス

○森平兵衛君 有限會社デハ出資ノ口數ノ移轉ニ付キマシテハ一々登記ノ必要ヲ認メナイノデスカ

○政府委員(大森洪太君) 御説ノ通り、登記ノ必要ハナイノデアリマシテ、社員名簿ニ其ノ旨ノ書替ハ必要ト致シマスケレドモ、登記ヲ強制致シテ居リマセヌノデアリマス

○山隈康君 商事ニ關スルコトハ世運ノ進歩ト共ニ頗ル繁雜ニ互ッテ、其ノ取引ノ實際ヲ管掌スルト云フコトハ餘程困難デハナイカト思フノデアリマス、現在ノ裁判制度ニ於キマスレバ、大學ヲ出テ、司法官試験ニ及第ラシ、僅カナ期間ノ修習ニ依ッテ本官ニ任ゼラレル、斯ウ云フ人ノ手ニ複雑極リナク而モ日ニ月ニ進歩セル商事上ノ判斷ヲ任セルト云フコトハ、餘程危險デアッテ、往々實際ニ即セナイ判斷ヲ下サル、虞ガアルト思フノデアリマス、此ノ故ニ屢、商事裁判ノ如キ特殊ノ裁判制度ヲ設ケラル、御意思ハナイカト云フコトヲ當局ニ御尋モ致シマ

シタガ、當局デハ左様ナ御企テハナイト云フ御話ヲ承ツクデアリマス、是ハ今此ノ司法官ノ試補ノ修習ト云フコトガ、現在ノ制度ノ上ニ付テハ非常ニ形式的デ、實際其ノ效果ノ有無ヲ私ハ疑フデアリマス、此ノ司法官ノ試補時代ニ於ケル修習ヲモット御考ヘニナツテ、商習慣ナリ或ハ特殊ノ取引所ニ於ケル取引ノ状態トカ、其ノ他會社ノ實際ノ情況、是等ヲ修習セシムルト云フヤウナ御考ハ政府ノ方デハ御持チハナイデスカ

デアリマス、尙商事裁判所ノ問題デアリマスルガ、商事裁判所ニモ色々アルヤウデアリマシテ、例ヘバ我が裁判所構成法上ノ裁判所ノヤウナモノデナク、判事以外ノ者ヲ構成員トスル商事裁判所モアルヤウデアリマスガ、左様ナ商事裁判所ノ制度ハ今日採用スルト云フ考ハ持つテ居ナイデアリマス、唯商事ニ付キマシテハ特殊ノ知見ヲ要スルノデアリマスカラ、大都市ニ於キマシテハ商事ニ特有ナル部ヲ設ケマシテ、即チ其ノ部ニハ商事事件ノミ、從テ商事ニ堪能ナル判事ヲ以テ之ニ當デルト云フコトニ致シテ居リマス、尤モ地方ニ依リマシテハ地方裁判所内ニ多數ノ部ヲ設ケルコトノ出來ナイ實情モアリマスルノデ、總テ普遍的ニハ申サレナイノデアリマスケレドモ、出來得ル限り左様ニ致シマシテ、只今御指摘ニナリマシタヤウナ弊害ノナイヤウニ努メタイト考ヘテ居ルノデアリマス

○山隈康君 只今御話ニナリマシタ現在ノ試補修習ニ於ケル手形交換所若シクハ取引所ノ實地見學等ハヤツテ居ラレルヤウデアリマスガ、是ハ殆ド形式デ、實際ノ真相ニ觸レテ其ノ實情ノ修習ト云フコトハ、從來ノ實績カラ見マスルト、甚ダ遺憾ノ點ガ少クナイト思フ譯デアリマス、ソレハ第一地方ニ於キマシテハソレヲ指導スル司法官ガ居ナイ、唯情況ヲ見テ一二ノ質問ヲスルニ止マルヤウナ情勢デアリマスカラ、之ヲ何トカ政府ノ方ニ御考ヘ願ヒマシテ、モット實績ノ擧ガルヤウニ最善ノ御注意ヲ願フテ置キマス

○政府委員(大森洪太君) 現在ノ司法官試補ノ修習中ニ於ケル見學ガ十分デナイト云フ御意見デアリマスガ、私共モ誠ニ左様ニ考ヘテ居ルノデアリマシテ、決シテ現狀ヲ以テ満足シテ居ナイノデアリマス、只今ノ御意見ヲ承リマシテ、甚ダ慚愧ニ堪ヘザル感ヲ致スノデアリマス、仰セニ依リマシテ、此ノ方面ニ更ニ十分ノ努力ヲ捧ゲタイト存ズル次第デアリマス

○山隈康君 第七十議會ニ於キマスル商法ノ改正案ニ關スル委員會ノ審議期間ガ非常ニ短クテ、私共ハ十分ノ研究竝ニ質疑ニ於テ相應ハナイ所ガアツテ、遺憾ニ存ジテ居ッタ次第デアリマス、此ノ節ハ相當ノ期間モアルヤウデアリマスガ、此ノ儘御繼續ニナルノデアリマセウカ、或ハ前回ノ例ニ依リマシテ、小委員デモ設ケラレテ審議ヲサレルト云フ御意見デアリマセウカ

○委員長(侯爵大隈信常君) 如何デセウカ、是ハ第七十議會ニ貴族院デハ大體修正ヲシテ通過シテ居リマスノデスカラ、此ノ度ハ小委員ヲ設ケズニ、此處デ大體ノ御審議ヲ願フテヤラウカト云フ考ヲ我々ハ持つテ居リマス

○山隈康君 此ノ儘御審議ヲ繼續セラレルト云フコトデアリマシタナラバ、本日ハ此ノ程度デ散會ヲ願ヒマシテ、モット案ニ付テ一ツ參考書類等モ本日戴キマシタカラ、モウ少シ研究シテ質疑ヲシタイト思ヒマス

○委員長(侯爵大隈信常君) 如何デスカ、外ニ御質問ハアリマセウカ、今日ハ無論午前中デ大體ノ御質問ヲ打切ツテ、又後ニシタイト考ヘテ居リマシタ、大體ノ御質問ガアリマスナラ、ドウゾ此ノ場合ニナスッテ戴キタイト

○政府委員(大森洪太君) 此ノ機會ニ御許シヲ得マシテ、昨日提案致シマシタ所ト、今日提案致シマシタ所トノ相違ノ點ヲ申述ベテ見タイト存ズルノデアリマス、先程大臣ヨリ申述ベマシタ通り、昨年當院ニ於テ御修正ニ相成リマシタ箇所ハ、總テ御修正ノ通りニ改メマシテ、提案ヲ致シタノデアリマス、其ノ文字ヲ申述ベテ見タイト存ズルノデアリマス、ソレハ先ヅ第百九十八條デアリマス、昨年提案ヲ致シマシタモノハ「發起人ニ非ズシテ株式申込證、目論見書、

株式募集ノ廣告其ノ他株式募集ニ關スル文書ニ自己ノ氏名及會社ノ設立ヲ贊助スル旨ノ記載ヲ爲スコトヲ承諾シタル者ハ發起人ト同一ノ責任ヲ負フ」トナツテ居タノデアリマス、然ルニ御修正ニ依リマシテ、何々ノ「記載ヲ爲スコトヲ承諾シタル者ハ」ノ次ニ「自己ヲ發起人ナリト誤認シテ株式ノ申込ヲ爲シタル者ニ對シ」ト云フ文字ヲ挿入シタノデアリマス、原案ノ儘デハ廣キニ失スルカラ、之ヲ幾分緩和シタ方ガ宜イト云フ御修正ノ御意見デアリマシテ、ソレニ從ヒマシタ次第デアリマス、其ノ次ハ第三百十九條デアリマス、原案ハ「社債權者集會ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外」云云トナツテ居タノデアリマス、其ノ文字ヲ改メテ「本法ニ規定アル場合ヲ除クノ外」トスベキデアルト云フ御修正ノ御意見ガアリマシタ、是ハ文字ノ問題デアリマシテ、實質ニ影響ハナインデアリマスルケレドモ、御修正ノ方矢張り實質ニ適スルノデアリマシテ、御修正ノ通りニ從ツタ次第デアリマス、次ハ第四百四十二條ノ第一項デアリマス、此ノ四百四十二條ノ第一項ニ準用條文ヲ掲ゲテ居ルノデアリマスガ、「第二百四十四條」ノ次ニ「第三百二十一條第二項」ヲ加ヘタ方ガ宜イト云フ御修正ノ

御意見デアリマシタ、成程此ノ方ガ完全ニナルノデアリマス、我々ノ方デ粗漏デアッタノデアリマス、從テ御修正ノ通り此ノ條文ヲ加ヘタモノヲ今回提案ラシタ次第デアリマス、其ノ次ハ罰則ノ部分デアリマシテ、第四百九十三條及第四百九十四條ノ各第一項ニ關スルモノデアリマス、昨年提案ノ分ニハ「賄賂ヲ收受シ」ト云フ文句デアッタノデアリマス、ソレヲ「不正ノ請託ヲ受ケ財産上ノ利益ヲ收受シ」ト、斯ウ改ムベキデアル、ソレカラ「他人ニ賄賂ヲ供與セシメ」ト云フ文字デアッタノデアリマスルガ、ソレヲ削除シテシマツテ、サウシテ同條ノ各第二項ニ「賄賂」トアルノデ「前項ノ利益」ニ改メタ方ガ宜イ、斯ウ云フ御修正ノ御意見デアリマシテ、是亦御修正ノ通りニ從ツタノデアリマス、次ハ第四百九十五條デアリマシテ、只今申述ベマシタト同ジヤウナ趣旨デ、「賄賂」ト云フノヲ「利益」ト改メタイト云フ御修正ノ御意見デアリマス、是亦ソレニ從ツタノデアリマス、以上ハ當院ニ於ケル御修正ノ點デアリマシテ、總テ御修正ノ點ニ從ヒマシタコト只今申述ベタ通デアリマス、其ノ他ニ二點變更ヲ加ヘタモノガアルノデアリマス、ソレハ第二百四十四條ノ第一項ノ問題デアリマス、昨年提案ノモノニ依リマス

ト、「株式ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但シ定款ヲ以テ其ノ讓渡ノ禁止又ハ制限ヲ定ムルコトヲ妨ゲズ」トアッタノデアリマス、此ノ本文ニ付テハ變更ガアリマセヌケレドモ、但書デアリマス、ソレヲ「但シ定款ヲ以テ其ノ讓渡ノ制限ヲ定ムルコトヲ妨ゲズ」トシタ方ガ宜イ、即チ「禁止」ト云フ文字ヲ避ケタ方ガ宜イト云フ意見ガ衆議院ノ委員會ニ於テ多數ノ考トシテ現レタノデアリマス、御承知ノ通りニ解散ニナリマシタガ爲ニ、御修正案トシテ現レル程度迄ニ立至リマセヌデシタケレドモ、多數ノ意嚮トシテ、此ノ「禁止」ノ文字ヲトツタ方ガ宜イト云フコトデアリマシタ、ソレハ御承知ノ現行法ノ第四百九十九條ニ此ノ條文ガ當ルノデアリマシタ、現行法ノ第四百九十九條ニ依リマスルト、「株式ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ承諾ナクシテ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得」、詰リ制限ガ出來ル、斯ウ云フヤウナ趣旨ニ規定サレテ居ルノデアリマス、御承知ノ通りニ、文字トシテ制限ガ出來ルト云フダケデアリマスルケレドモ、解釋ト致シマシテハ禁止ラシテモ差支ハナイ、即チ茲ニ現レテ居リマスル禁止ノ趣旨ハ、廣イ意味デアルト云フコトニ先ヅナツテ居ルヤウデアリマス、デアリマスカラ、我々ト致シマシテ

ハ、禁止モ出來ル、制限モ出來ルト云フ積リデアリマシテ、其ノ實質ニ相違ハナイノデアリマスルケレドモ、成ルタケ現行法ニ近イ文字ヲ入レテ、「制限」ト云フ字ダケデアリマシタ方ガ宜クハナイカト云フ趣旨デアリマシタ、デアリマスカラ、此ノ趣旨ニ從ヒマシテ、第二百四十四條ノ但書ヲ「但シ定款ヲ以テ其ノ讓渡ノ制限ヲ定ムルコトヲ妨ゲズ」ト、斯様ニ變更ヲ致シタ次第デアリマス、是ト同様ノ趣旨カラ致シマシテ、第七十五條ノ第二項ノ第五號ニ矢張り「禁止若ハ制限」トアリマシタノヲ「制限」ト致シマシタ、第七十五條第二項第五號デアリマス、又矢張り同様ノ趣旨カラ致シマシテ、第八十八條ノ第二項第六號モ同様ニ改メマシタ、尙第二百二十五條第一項第六號モ同様ニ改メマシタ、即チ第二百二十五條第一項第六號デアリマス、即チ四ヶ所アリマスルケレドモ、其ノ趣旨トスル所ハ只今申述ベタ一點ダケデアリマス、是ガ衆議院ノ委員會ニ於ケル多數ノ意嚮ニ從ツタ次第デアリマス、其ノ外ニ私共デ再考ノ結果改メマシタ所ガ一點ダケアルノデアリマス、ソレハ第三百八十條ノ第二項デアリマス、第三百八十條ノ第二項ハ資本減少ノ無効ノ訴ヲ起シ得ル者ヲ規定シタノデアリマスガ、其ノ

中ニ昨年提案ノ時ニハ清算人ト破算管財人トガ拔ケテ居ッタノデアリマス、是ハ他トノ權衡カラ考ヘマシテモ、清算ノ場合ノ清算人、破産ノ場合ノ破産管財人ヲ加ヘルコトガ適當デアラウト考ヘマシテ、此ノ二者ヲ茲ニ加ヘタノデアリマス、以上申述ベタ所ガ昨年提案ノモノト異ル點デアリマシテ、即チ當院御修正ノ分ノ外ニ先程申上ゲマシタ衆議院ノ委員會ノ意嚮ニ從ッタモノガイツ、ソレカラ私共他トノ權衡上デ考ヘマシタモノガ一ツ、以上デゴザイマス

○委員長(侯爵大隈信常君) 山隈君ニ御尋ネシマスガ、先程何カ參考資料ノ提出ヲ御要求ニナリマシタガ……

○山隈康君 サウデヤアリマセヌ、色々ナ書類、説明書トカ、理由書トカ云フノヲ今戴キマシタカラ、之ヲ少シ拜見致シマシテ……

○委員長(侯爵大隈信常君) 如何デスカ、明朝マデソレハ差支アリマセヌカ、……ソレデハ今日ハ此ノ程度ニ致シマシテ、明朝十時カラ開會致シタイト思ヒマス、今日ハ散會致シマス

午前十一時四分散會
出席者左ノ如シ

委員長 侯爵 大隈 信常君

副委員長 山岡萬之助君
委員

公爵 島津 忠承君
伯爵 黒木 三次君
子爵 八條 隆正君
子爵 舟橋 清賢君
松本 添治君

男爵 松岡 均平君
男爵 伊藤 文吉君
森 平兵衛君
山隈 康君

岩田 宙造君
山上 岩二君
大西虎之介君

國務大臣

司法大臣 鹽野 季彦君

政府委員

司法省民事局長 大森 洪太君
司法省刑事局長 松阪 廣政君
司法省調査部長 井上 登君

昭和十三年二月一日印刷

昭和十三年二月二日發行

貴族院事務局

印刷者 內閣印刷局